

特別なもの

私は最近、小・中学生人権作文コンテストの多くの作品を読む機会があり、自分が人権の作文指導をしていたときのことを思い出しました。人権という言葉だけでは小学生が人権作文を書くことは難しく、あの手この手で工夫をして人権作文の指導に取り組みました。

時には、異文化理解について考えるために、昆虫食を入口として、「当たり前とは何か」「文化を受け入れること＝食べることなのか」など考える機会をつくりました。また、障がい者問題に目を向けるために、「テレビの放送時間がオリンピックからパラリンピックになると短くなるのはなぜだろう」と話し合っていました。今思うと、あの頃の私は、人権とは自分たちの生活からは遠く離れたところにある「特別なもの」だと捉えていたのかも知れません。

しかし、子どもたちの人権作文を読む中で、読み手として強く心が揺さぶられ、共感させら

れるものは、子どもたちが実際に体験し、日々の生活の中で感じている身近な気づきや感動でした。友達の考えを聞いて違いに気が付くこと、けんかをして仲直りをしたこと、困っている友だちに「大丈夫？」と声をかけたこと、思い切っって自分の考えを発表したことなど、その全てが人権につながっているのです。国連の「子どもの権利条約」には「子どもが健やかに成長し、自分の考えを持ち、安心して生きること」が明記されています。これは、遠い国の話ではなく、子どもたちの生活そのものといえます。

人権を「特別なもの」と思うと難しいものと感じてしまいます。しかし、日々の生活を安心して笑顔で過ごすことと考えれば、理解しやすいものになります。人権を誰かの問題ではなく、私たちが毎日向き合っている現実そのものだと意識することが、互いを尊重し合う社会を築いていくことにつながるのだと思います。



木樋展示館内部



現在の末谷池



▼問合せ 郷土資料館（☎235992）  
末谷池は江戸時代末期に黒田村（現黒田庄町黒田）の農業用水を確保するために築かれた大規模なため池です。文化11（1814）年の立案から文政13（1830）年の竣工まで17年の歳月をかけて造られました。補修を繰り返して、平成14（2002）年に完了した大改修により、池周辺の散策路や公園が整備されました。堰堤の下には木樋展示館が建てられ、改修前まで使われていた古い木樋管と末谷池の歴史を記した石碑が残されています。また、末谷など「すえ」という地名の土地は、須恵器の窯跡が多く見られます。同池周辺でも窯跡が発見されています。木樋展示館を見学希望の方は、郷土資料館へお問い合わせください。

ふるさとの魅力再発見 しわき歴史探訪 74 末谷池（黒田庄町黒田）

市長からの手紙

— 西脇を元気に!! —

142



旧来住家住宅で播州織の浴衣を試着する市民親善使節団の皆さん

姉妹都市・レントン市との交流再開！  
新型コロナウイルスのため、5年間でできなかったアメリカ・レントン市との交流を再開するため、昨年7月に教育長とともにレントン市を訪問しました。その際、今年の市制20周年記念式典に合わせて、ぜひとも西脇市を訪問してほしいとパヴォーネ市長にお話ししました。念願がかない、10月4日の式典には、パヴォーネ市長をはじめ、市の幹部職員など9名の方が出席して



西脇市長 片山象三

先日は、元ライオンズクラブ会員の皆様から書かれた昭和54年当時のレントン市との交流に関する記録ノートを見ました。当時は、今のよう交流の中心が市・教育委員会ではなく、自らが日程を考え、案内するなど、ご苦労の様子が見えました。現在の両市の絆は、色んな方のお力添えによるものだと改めて感じました。多くの皆さまに感謝しながら、今後も官民一体となり、レントン市と発展的な交流を続けてまいります。

みんなでまちづくり—市民の皆さんのまちづくり活動—

野球のまち・西脇を全国に発信

～市民提案型まちづくり事業採択団体の紹介～

「大リーグ研究に生涯をかけた今里純」実行委員会は、西脇市出身で日米野球の懸け橋となった故今里純氏の偉業を後世に伝えるため、市民主体で貴重な資料の整理や展示活動を進めています。



今年度は日本人初のメジャーリーガー「マッシー村上さん」のトークイベントを開催し、多くの野球ファンが集いました。さらに来年3月には、第2回特別展を予定しており、スコアブックやバットなど数々のコレクションを展示する予定です。



今後も展示や野球教室を通じて、子どもたちに夢や挑戦の大切さを伝え、「野球のまち西脇」の魅力を広く発信していきます。

西脇の自然 620

イヌタデ

たで科



植物にはイヌザンショウ、イヌマキなど「イヌ」という呼称が付けられている種がありますが、「ニセモノ、役に立たないもの」という意味があるようです。イヌタデはヤナギタデのような辛みがないので、役に立たないとされたのでしょう。

昔の子どもたちはままとでイヌタデを赤飯に見立てて遊んだことから「アカマンマ」と呼ばれる…と聞いて「そういえば、遊んだことがあるわ」と思い出される方がいるかもしれません。身の回りの自然と一緒に遊んだ記憶は鮮明に覚えているものですね。

イヌタデは田のあぜや水辺などによく生え、秋に赤い穂を出して存在を主張します。抜けるような青空を背景に群落を見ると、秋の深まりを感じます。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】